

令和6年度労災疾病臨床研究事業費補助金
「過労死等の実態解明と防止対策に関する総合的な労働安全衛生研究」
分担研究報告書(対策実装研究)

対策実装研究アクション 5:改善型チェックリストの開発と実践

研究分担者 酒井一博 公益財団法人大原記念労働科学研究所・主管研究員

<研究要旨>

【目的】過労死等の防止対策実装研究のアクション 5 として、職場の環境改善を支援するツールの開発と、それを使用した運送会社での改善の取組みを実践することを目的とする。事案(調査復命書)の分析結果に基づく過労死等の包括的な予防対策の 6 つの柱(協力して成長できる/健康のために必要な睡眠・休息がとれる/安全に働ける/互いに尊重し支えあえる/社会的責任を果たす/健康で元気に働ける)を設定し、各柱に対応する対策内容を収集し、トラックドライバーを対象とするアクション型チェックリストの項目を作成した。令和 5 年度は、このチェックリストを使用したグループワークを中堅運送会社で試行した。また、より取組みやすく短時間の実施ができるカードワークと付箋ワークを使用したグループワークの手順を検討した。6 年度はこのカードゲーム式ツールをトラックドライバーの職場環境改善活動に適用する。

【方法】カードゲーム式職場改善ツールを使用したグループワークを中規模の運送会社の協力を得て実施する。

【結果】これまで(平成 5~6 年度)にチェックリスト式のツールを 1 社で、カードゲーム式ツールを 4 社で試行した。カードゲーム方式の実施では、(1)比較的短時間(1 時間)で対策の決定までは可能な例が多かった。対策実施計画の作成までの所要時間に関しては会社またはグループによる差があった。(2)職場改善活動の実施機会として、全社員の総会や安全大会内での実施、実施日に参加可能なメンバーのみによる実施の例があった。(3)グループワークでは活発な発言と議論がなされ、事業者、管理者からも有意義であったとの意見が多かった。一方で、グループワークで決められた改善活動が実施され、成果の共有や継続的取組みがなされた例は 1 社、管理者主導の改善の手がかりとなった例が 1 社であった。ドライバーのアイデアの収集や議論の機会、コミュニケーションの改善方策としてのツール利用の有効性が示されたが、従業員による自主的な改善の実行や取組みの継続に関しては課題が残された。

【考察】ツールを利用したグループワークの実施による従業員の意見や議論の成果があった。改善活動の実行や PDCA の継続に関しては課題がある。

【この研究から分かったこと】参加型職場改善プログラムの運輸職場への適用は、少なくとも議論・コミュニケーションの機会、管理者による現場の意見の把握に関して有効であった。企業の状況に応じ、改善が実行・継続する適用方法の検討が必要である。

【キーワード】実装研究、運輸業、参加型改善

研究分担者:

鈴木一弥(労働安全衛生総合研究所過労死等防止調査研究センター・研究員)
石井賢治(公益財団法人大原記念労働科学研究所・主任研究員)
吉川 徹(労働安全衛生総合研究所過労死等防止調査研究センター・統括研究員)
高橋正也(同センター・センター長)

茂木伸之(同センター・研究員)
高橋有記(同センター・研究員)
中辻めぐみ(同センター・研究員)
深澤健二(株式会社アドバンテッジリスクマネジメント・メディカルアドバイザー)
研究協力者:
仙波京子(公益財団法人大原記念労働科学研究所・研究員)

中西麻由子(なかにしヘルスケアオフィス代表・産業医)
野原理子(東京女子医科大学医学部・教授)

A. 目的

過労死等の防止対策実装研究のアクション5として、職場の環境改善を支援するツールの開発とそのツールを使用した運送会社での改善の取組みを実践することを目的とする。昨年度までに、過労死等事案についてのこれまでの諸研究結果^{1),2)}と関連する既存の内外のツールの調査³⁾に基づき、過労死等の包括的な予防対策の6つの柱(表1)を設定し、6つの柱それぞれにつき4項目の対策アクションを設定した。令和5年度は、このチェックリストを使用した参加型職場改善活動の実施に着手した⁴⁾。

トラック運送業では、ドライバーが社外で働くことや、勤務の時刻が不規則な場合も多いことから、ドライバーが集まって実施するミーティング等の時間が限られている。そこで令和5年度は運輸の職場でより利用しやすいカードゲーム式のツールの開発に着手した。令和6年度はこのカードゲーム式ツールを完成させ、その運輸現場への適用を試みる。

表 1. 働きやすい職場の6つの柱

A) 協力して成長できる
B) 必要な睡眠・休息がとれる
C) 安全に働ける
D) 互いに尊重し支えあえる
E) 社会的責任を果たす
F) 健康で元気に働ける

B. 方法

1. カードゲーム式のトラックドライバー用ツールの作成

チェックリストの項目(6つの柱×4項目)⁴⁾による23枚のカード(類似の項目を1つ省略)を作成した(例:図1)。また、カードを分類する分類シートA(図2)、付箋を分類する分類シートB(図3)を準備した。グループワークの手順を作成した(表2)。



図 1. 対策カードの例(予防対策の柱AとBの例)



図 2. カードを分類するための分類シート A



図 3. 付箋を分類するための分類シート B

C. 結果

1. 運送会社での取組みの実施状況

これまで(平成5~6年度)にチェックリスト式のツールを1社で、カードゲーム式ツールを4社で試行した(表3)。運送会社がこの取組みを採用した契機として以下の例があった。

(1)対策実装ステークホルダー会議のメンバー(大手運送会社安全衛生トップ)の紹介(中堅の運送会社と倉庫業)。

- (2)対策実装研究アクション3の取組みとして実施された学会の自由集會に参加した産業保健職によるクライアントの紹介。
- (3)運輸事業者団体のイベント(女性経営者の勉強会)において研究班メンバーがこの取組みの説明をする機会があり、その結果としての事業者からの直接の応募。

職場改善活動が実施されたイベントの種類・実施機会として、全社員の安全大会での実施の例と、実施日時において参加可能なメンバーのみによる実施の例があった。後者においては公平を保つための全員実施が望まれるとの管理者の意見があった。

2. カードゲーム式ツールによるグループワークの実施結果

カードゲーム方式の実施状況は以下のとおりであった。

- (1)比較的短時間(1時間)で対策の決定までは可能な例が多かった。対策実施計画の作成までの所要時間に関しては会社またはグループによる差があった。
- (2)グループワークでは活発な発言と議論がなされ、事業者、管理者からも有意義であったとの意見が多かった。
- (3)グループワークで決められた改善活動が実行され成果が共有され、かつ翌年まで取組みが継続された例は1社のみであった。また、従業員自身による改善活動には至らなかったが、グループワークでの意見が管理者主導の改善の手がかりとなった例が1社あった。

以上から、このツールによるグループワークの実施がドライバーのアイデアの収集や議論の機会、コミュニケーションの改善方策として有効性であることが示されたが、改善の実行や継続に関しては課題が残された。

D. 考察

カードワークと付箋ワークを取り入れたグループワークの実施によって、従業員の意見交換や議論の機会、管理者・事業者がドライバーの率直な意見を把握して管理主導による改善の手がかりとする機会として有効と思われた。しかし、従業員自身のグループによる改善の実行まで可能であった例は現在までに4社中1社のみである。運輸業の実情を考慮した改善活動の実行やPDCAの継続の支援を可能

にするための取組みの導入の手順等も含めて今後の課題である。

表 2. 働きやすい職場づくりプログラム(運輸職場・カードワーク版)の手順の概要

Step	対策カードを4つに分類する	
	1-1	グループごとに、ワークの準備をする
Step 1	1-2	各自が対策カードを4つに分類する(シートA、図1)
	取組む対策を話し合う	
Step 2	2-1	工夫の秘訣を教えあう
	2-2	最初に取り組む対策を話し合って1つ決める
Step 3	取組む対策に関する意見を3つに分類する	
	3-1	ステップ2-2で選んだ実施したい対策について、メンバー個人の意見を出し合う
	3-2	付箋を分類する(分類シートB、図2)
Step 4	グループで実行する取組みを選ぶ	
	4-1	「自分自身で対策できること」の具体的な取組み方法を紹介しあう。
	4-2	メンバーと一緒に改善したい取組み(付箋)を話し合って1枚選ぶ
Step 5	具体的な改善計画を考える	
	5-1	改善のための行動計画を話し合う
	5-2	改善のための行動計画をまとめる(付箋ワークと報告シート記入)
Step 6	改善のための行動計画について報告する	
	改善計画・報告シート、「社外の力が必要だと思われること」等を上司や管理者に報告	

E. 結論

参加型改善プログラムの運輸職場の適用は、議論・コミュニケーションの機会、現場の意見収集の面で有効であった。運輸業の実情や企業の状況を考慮し、改善の実行・継続を可能にする手法や企業への導入手順の検討が必要である。

F. 健康危機情報

該当せず。

G. 研究発表

- 論文発表
なし
- 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

む)

なし

I. 文献

- 1) Takahashi M. Sociomedical problems of overwork-related deaths and disorders in Japan. *Journal of Occupational Health*. 2019; 61: 269-277.
- 2) 高橋正也他 過労死等の実態解明と防止対策に関する総合的な労働安全衛生研究令和2年度 総括・分担研究報告書. 労災疾病臨床研究事業費補助金. 令和3(2021)年3月.
- 3) 鈴木一弥, 吉川徹, 高橋正也. 長時間労働による健康障害の自主的な予防活動を支援するツールに関する調査. *労働安全衛生研究*. 2022; 15(1): 23-35.
- 4) 高橋正也他 過労死等の実態解明と防止対策に関する総合的な労働安全衛生研究令和5年度 総括・分担研究報告書. 労災疾病臨床研究事業費補助金. 令和3(2024)年3月.

表 3. 令和 6 年度までの職場改善ツールの適用状況

	対象企業	対象者	ツール	改善の取組み状況	背景等
R5 年	運送会社A (150 台)	ドライバー	カード ゲーム式	<ul style="list-style-type: none"> グループごとの成果を安全大会で共有 次年度でプログラムの継続(継続再実施) 	<ul style="list-style-type: none"> 経営者の社会貢献志向 2024 年問題への積極的対応
R6 年		ドライバー、内勤者			
R5 年	倉庫業A(41 名)	倉庫作業員 12 名	カード ゲーム式	<ul style="list-style-type: none"> 社員の意見を聴いての管理者主導の改善あり コミュニケーションの重要性の認識からボランティア活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 専門性のある事業(危険物等) 倉庫業のため集合が可能
	運送会社B (160 名)	ドライバー51 名			
R6 年	運送会社C (47 名)	12 名(含ドライバー4 名)		調査中	2024 年問題への積極的対応



図 4. カードワークの実施風景



図 5. 付箋ワークの実施風景